

年間第29主日の説教

金 大烈 神父 2009年10月18日(日)

《「お前は素晴らしい」、「お前はばかだ」》

おはようございます。

今日の福音(マルコ10・35-45)を読みますと、イエス様はこの様におっしゃいます。「偉くなりたい者は、皆に仕える者になりなさい」「いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい」。

何故、イエス様が急にこの様に言われたのでしょうか。皆様もご存じのように、弟子達はイエス様が栄光の座につかれた時に、自分がどの席をもらえるかについて、よく口争いをしていた事が聖書のあちこちに著されています。その争いの内容をみて、イエス様は多分心を痛めたと思います。それで「偉くなりたい者は、仕える者になりなさい」、「いちばん上になりたい者は、僕になりなさい」とおっしゃったのです。ご自分の弟子達が、イエス様の考えにあまりにも外れているので、この様な言い方をなさったと思います。本当は、イエス様は「偉くなりたい」という心さえ「持つな」とおっしゃりたかったのだと思います。

カトリックとしての“偉い心”は何でしょうか。“偉くなりたい気持ち”、“一番上になりたくなる気持ち”さえ、私達は持つべきではありません。何故なら、私達は同じ家族、兄弟姉妹だからです。

イエス様は2000年前に、ご自分の33年間の生活の中で一番力を入れて述べ伝えた、その内容は何かでしょうか。「“関係”に対して最善を尽くせ」という事です。全ての幸せ、全ての不幸は、全部この“関わり”“関係”から生じるからです。私達が福音的な生き方をする唯一の方法は、私達が出会う全ての人々との関わりの中で、正しく、望ましく、自分の姿を見せる事だと思います。

結局、“関係”が問題です。皆様は人との関わりの持ち方が、上手いか下手かはご自分がよくご存じだと思います。いかに“関係”を活かせるか、“関係”を崩すかは、自分の持っている心、相手の心によって、ぶつかるか、上手く行くかが決まると思います。

人の心が一番現れる所は何処でしょう。“顔”ですよね。顔には、怒り、喜び、嬉しさ、楽しさ、悲しみ全ての感情が表れます。“顔”の中にあるものの中で、特に“目”でそれが分かります。この人は私を軽んじているか、無視している目か、尊重している目か、自分の言葉を裏切っている目か、拒んでいる目か、言葉尻を何とかしてとらえようとしている目か、直ぐ分かります。

次はどこですか、次は“口”です。口から出される“言葉”です。言葉の音の高さ、低さ、広さ、狭さによっても、人が自分をどの様に思っているのか直ぐに感じる事が出来ます。

今日は、皆様とこの“口”について話し合いたいと思います。私も、たとえそれが冗談であっても、皆様の心を傷つけた事があるかも知れません。その様な事があつたら、この席を借りてお赦しを頂きたいと思います。

さあ、どうですか、皆様の“口”は。私達は出来るだけ、綺麗な、美しい言葉を使うべきです。しかし、それはなかなか出来ませんよね。たまには悪口も出るし、時には呪う言葉さえ出るかも知れません。とにかく、神様に、イエス様に任された一番大事な“福音の関係”、“福音によって繋がれる、造られる関係”というものは、“目”次に“口”から出される言葉からなると思います。

私は皆様と共に一つの実験をしようと思い、2つのビンを用意しました。赤いフタ、青いフタのビンそれぞれに、昨日私が同量のご飯を入れました。そして赤いフタのビンには“ばか”と書き、青いフタの方には“ありがとう”と書きました。“ありがとう”と書いたビンには、私は出来るだけ“褒める言葉”、“良い話”、例えば「お前は綺麗だな、ありがとう」「お前は立派だな」「素晴らしい」という言葉を1ヶ月かけます。“ばか”と書かれている方には「むかつく」「汚い」「出ていけ」という汚い言葉ばかりをかけます。1ヶ月後にどの様な変化があるか、私は分かっています。皆様にも、これは大

事な事として同様にして頂きたいと思います。出来るだけ場所を動かさずに、決まった場所、例えばテーブルの上とか、よく目が届く所に置いて下さい。そして目が留まる度に、一方は褒め、一方は呪って下さい。半信半疑の方もいらっしゃると思います。1ヶ月後、皆様はテーブルの上の2つもビンをよく観察して、感じられる事があると思います。全然違う姿をこの2つのビンは造ります。一緒にしてみましょう。

子供たちの為にも大事な事です。昨日の子供たちのミサではこれをしてもらいました。1ヶ月後、それ持って来て2つに何の違いや変化も無ければ、私はうそつきになってしまいます。皆様もやってみて下さい。必ず驚く様な結果が出ると思います。

このビンに入っているご飯は既に死んだものですよね。生きているものではありません。例えばもっと効果的にこれを実験しようとするれば、ビンの中に玉葱を入れて同様に行えば、褒められた玉葱は直ぐに力強く根を出し大きくなります。呪われた玉葱は何日も経たずに腐ってしまいます。

ということは、“人の思い、心が込められた言葉”というものは、ものすごく“危ない武器”になり得るという事を言いたかったのです。“褒める言葉”は人を活かします。死んだ人も生かします。あらゆる希望を失った人々も、私達がかかるその一言によって、生きるか、死ぬかが決まります。

どうか皆様、ご自分の“口”について反省してみましょう。奥さんに対して、無視をしてしまった事があるでしょう、ご主人に何かがあった時、妻として支えようとするのではなく、自分の事ばかりを言ってしまった事があるでしょう。それがお互いを活かし合う事なら良いのですが、お互いを殺し合ってしまうとこれは大変な事です。

この“口”によって変わる力。変わる変化に付いていつも意識しましょう。たった一言でも心を込めて、どのような心かをまず考えて話し合うのは、私達の正しい態度ではないかと思います。

(ビンに向かって)「お前は素晴らしい」、「お前はばかだ」

最後に、ある雑誌に載っていた一つの話を紹介させていただきます。

ありがとうございました。

実験結果（2週間後）11月1日（日）ミサの説教の中で



砂糖のような人と塩のような人

砂糖のように話す人がいて、塩のように話す人がいます。

砂糖のように働く人がいて、塩のように働く人がいます。

砂糖のような生き方をする人がいて、塩のような生き方をする人がいます。

目には見えないが、あらゆる海には白い塩が混じっているように、

私たちの心の海にも塩が沢山入っています。

自分の中にある塩で、

人々の言葉に味を付け、

人々の愛に愛を付け、

人々の名にも味を付けましょう。

砂糖のように濁らせる隣人にならずに、

塩のようにはっきりする隣人になりましょう。

砂糖のように味を失わせる人にならずに、

塩のように味を生かせる人になりましょう。

砂糖は無くては生けるのですが、

塩無しには生けないのです。